

コロナ禍での活動

10月10日15時より集会所で自治会の文化体育部は「コーヒーの淹れ方教室」を開催しました。講師はJR東日本フーズの白子浩子先生。参加者13人は3人一組になり、全員が3種類のコーヒー豆(中細挽き)を淹れ、味わい、ドリップコーヒーの味の違いを学びました。白子先生はコーヒーに興味を持つ参加者からの沢山の質問に親切・丁寧に回答をくださいました。
(サンヴェール保土ヶ谷自治会会長 羽根一男)

半年ぶりの活動再開となる「長寿の祝い」で287名の方へのカステラ配布に臨みました。昨年までは自治会館内での手渡しでしたが、今年は屋外で非接触での配布とし、入口から出口までを一方通行とし感染対策(検温、マスク、消毒他)を施し、無事終了しました。今後もコロナ禍は「正しく恐れる」心構えで対処していきたいと思ひます。
(瀬戸ヶ谷町自治会会長 吉澤 進)

コロナ禍で……桜の頃に国中が大騒ぎ、誰もが家に閉じこもり区役所、連合会、自治会は行事どころではなく不安が一杯でした。半年を過ぎた頃から役所が動き始まり、役員会も短時間開催。毎月の広報誌配布、敬老会の祝い品配布他は行事もできない状態です。コロナよ早く終息してくれと願うばかりです。
(岩井町自治会会長 小原秀雄)

本年度は自治会での集会や事業はほぼ自粛してまいりました。催事の中止は掲示板等で周知徹底しています。回覧版が自宅に巡回されることさえ警戒、懸念されています。自治会定例会は役員と班長数人で3密を避けて7月から再開しました。新型コロナウイルス感染が収束するまで活動は自粛となります。
(保土ヶ谷駅前ハイツ自治会会長 青木 茂)

「合同防犯パトロール」毎月実施

瀬戸ヶ谷中部自治会(吉本勝会長)、グランドメゾン自治会(田頭憲治会長)、モアグランデ自治会(関根和彦会長)、サンヴェール保土ヶ谷自治会(羽根一男会長)の各自治会は、周辺地域の合同パトロールを毎月実施しています。平成18年より始まり、その後地域ごとに実施することの提案もありましたが現行の姿になりました。原則は各自治会長が出席ですが、会長家族、自治会役員が出席することもあります。毎年の1回目は「サンヴェール保土ヶ谷」建物内のパトロール。その後はコースにより「グランドメゾン」「モアグランデ」内をパトロール。雨天時を除き休会なく実施することをモットーにこれからも続けていきます。

「コロナ禍での生活」についてアンケート実施

コロナ禍での地域の皆様の気持ちを知るため、シールアンケートを行いました。友人や家族と会いたいが会えないという方が多く、ケアプラザとして地域の皆様と一緒に何ができるかを考えるきっかけとなりました。
(岩崎地域ケアプラザ)

「緊急食糧支援の実施」

コロナの影響で収入が減少した学生や子育て世代に向けて、食糧支援を実施しました。南部地区民生委員児童委員協議会からも、お米などのご寄付をいただき、必要とする方への支援に活用させていただきました。
(保土ヶ谷区社会福祉協議会)



地域の皆さん、私たち「南部地区社協」と一緒に、地域活動に参加しませんか?

保土ヶ谷南部地区社会福祉協議会

発行日令和3年1月1日第11号

発行人 保土ヶ谷南部地区社会福祉協議会

会長 羽根 一男



保土ヶ谷南部地区社協だより

「助けて!と言えまち」を目指して

第4期ほっとなまちづくり地区別計画の検討スタート

南部地区社会福祉協議会会長 羽根一男

コロナ禍の影響で、地域の高齢者や子育て世帯などの生活状況が著しい変化を余儀なくされています。また外国籍の方も生活全般に困っていることをお聴きしました。保土ヶ谷南部地区には外国籍の方も多く住んでいることから、一緒に「安心して暮らせるまちづくり」をすすめるために、外国籍の方の支援事業を行っている「ほとがや国際交流ラウンジ」の方に来ていただき、支援事業を学びました。

当初「ほっとなまちづくり」計画策定に向けて、地域の高齢者の方の意見を直接お聴きすることを企画しましたが、話し合いの場に来てもらうことは難しいことがわかりました。まずは、地域にお住いの文化交流などを通じて、自然につながりを作り、そこから生活の中での困りごとなどを聞ける関係性を作っていく事としました。

今後5年間の計画の中に、外国籍の方との交流(盆踊り・花火大会・餅つき等)や共に安心して暮らせるまちづくりを検討する、というテーマを設定し、5年かけて少しずつ、関係づくりを進めます。

さらに、計画策定では、この他に高齢者の方へのヒアリングを行い、その結果を計画に反映し、推進します。
(右下記事に続く)



ほっとなまちづくり策定チーム 会議風景

～コロナ禍に思うこと～

外出を控える生活が続く中で、地域のご高齢の皆様、お子様がどのような日々を過ごしているのか、私たち民生委員児童委員もたいへん心を痛める日々が続いております。

「保土ヶ谷南部地区社協だより」も新型コロナウイルス感染拡大防止の諸状況により、休刊の判断に至っておりましたが「今、できることをする」という編集委員の総意から、ほぼ1年振りに皆様の手元にお届けできる運びとなりました。どうぞ、ご覧ください。

南部地区民生委員児童委員協議会会長 菊地雅恵
南部地区社協 広報紙編集委員会一同

～外国籍の方にとっても

住みやすいまちに～

保土ヶ谷区は外国籍の方の人数が市内で6番目に多く、5,600人が暮らしています。インド、ネパールの方が多く、最近はベトナムの方も増えているそうです。

日本で暮らす上で困るのは、①日本語の不自由さ(29.8%)、②病気になった時に言葉が通じない(19.3%)、③自分や家族の健康(14.7%)、④災害時や緊急時の対応(14.6%)、⑤子どもの教育(14.5%)だそうです。

南部地区にも多くの外国籍の方が暮らしています。外国籍の方にとっても暮らしやすいまちになるよう取り組んでいきます。

令和元年度南部地区社会福祉協議会定期総会 書面表決報告

南部地区社会福祉協議会会長 羽根一男

令和2年6月6日に開催を予定しました「令和元年度南部地区社会福祉協議会定期総会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、多人数の方が集まることを避け、書面にて議決することといたしました。委員数18名、表決書提出数18枚。第1号議案事業報告：承認18名 否認0名 第2号議案収支決算報告：承認18名 否認0名 第3号議案会計監査報告：承認18名 否認0名 第4号議案役員：承認18名 否認0名 第5号議案令和2年度事業計画(案)：承認18名 否認0名 令和2年度収支予算(案)：承認18名 否認0名 各議案とも案のとおり承認されました。審議結果は令和2年6月9日に各委員に送付させていただきました。

長寿の祝い

「カステラ配布」実施

岩井町自治会

瀬戸ヶ谷町自治会

瀬戸ヶ谷町自治会では

9月15日少人数で検温後、

マスク着用で準備開始→

70歳以上の自治会員287名の皆様に配布しました。



すいとんの会 瀬戸ヶ谷町自治会

70歳以上の方を対象とした非常食受取訓練

9月30日、検温、マスク着用確認、記名、ソーシャルディスタンスを保ち、配置の机上より各自受取。



容器で受取

自宅で盛付

「コロナ禍での生活ね。運動不足になるわ。買物にも出かけるの外出し」



岩崎地域ケアプラザによる

「コロナ禍での生活」アンケート：関連記事4ページ

子育てサロン『ポテト』 主任児童委員

「小さい子が遊べる場所はないかしら?」「発育のことが心配…」そんなときは、子育てサロン『ポテト』にお越しください。1月を除く、毎月第3金曜9:30より、瀬戸ヶ谷スポーツ会館で開催中です。スタッフ一同、広い体育室で、清潔なおもちゃを準備して、お待ちしております。(感染症対策のため、1月現在申込制となっております)



ポテト育児講座

～民生委員児童委員協議会

赤い羽根共同募金活動～

10月1日JR保土ヶ谷駅にて募金活動を行いました。皆様からお預かりした募金は、地区社協活動への助成金、保土ヶ谷区ふれあい助成金の財源にも充てられ、南部地区で実施している子育てサロン「ポテト」などの活動に役立てられています。



JR保土ヶ谷駅コンコースにて

10月4日 福島支援

いわき市薄磯地区へ60人乗りの大型観光バスにて17名で訪問しました。民生児童委員協議会からも6名が参加。今年は、3・11東日本大震災からの復興のみならず、コロナ禍により、往路復路で他の観光バスとは1台すれ違うのみという、観光客激減の様子を実体験し、経済の復興に対しての心配が増しました。



いわき震災未来伝承館にて

(主催:瀬戸ヶ谷町自治会)

11月4日 お弁当配布会

感染予防に気を付けながら、一人暮らし高齢者の皆さんに参加して頂きました。区生活支援課の郷原課長のビデオレターを見ながら、短い時間、皆さんも久しぶりに逢う方々と楽しい時を過ごして頂き、お弁当とおやつをお持ち帰り頂きました。

(主催:南部地区民生委員児童委員協議会)



岩井町自治会館にて 会場風景

11月3日 本陣フレンドシップ・デー紙面開催

例年の様子を紙面にまとめ、公共施設での配架、11月6日、7日には読売新聞の折り込み等により、地域の皆様にお届けしました。



道行く人にも足を止める横断幕



民生委員児童委員協議会の出し物は毎年人気の防災ヨーヨー (2019年撮影)

11月22日 瀬戸ヶ谷町自治会創設70周年記念事業。民生委員児童委員協議会は、防災スーパーボールすくい公園内の大木の下で行いました。



大賑わいでした。委員らは、オレンジ色のベストを着用して「季節代わりの踊り」の輪にも加わり、一日を楽しみました。



横浜市立岩崎小学校

創立90周年バルーンリリース

風船は、東京、千葉、埼玉茨城、栃木などに飛んでいきそれを手にされた方々から、40通をこえる温かい手紙をいただきました。

